

和歌山県 田辺市

2005（平成17）年5月、5市町村の合併により誕生した田辺市は、紀伊半島の南西側、和歌山県の南部に位置し、人口74,770人（平成27年国勢調査）、総面積1,026.91km²と和歌山県全域の2割を超える近畿地方最大の面積を有しており、古くから紀南地方の政治、経済、文化の中心地として栄え、今日では、医療や福祉の分野においても多数の重要な都市的基盤を有するなど、紀南の中核都市としての役割を担っています。

また、本市は、和歌山県・奈良県・三重県にまたがる三つの霊場とそこにつながる参詣道、それらを取り巻く文化的景観で構成する世界文化遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」の中心地に位置しているとともに、地域環境を生かし、高品質な梅を持続的に生産してきた当地域独特の農業システム「みなべ・田辺の梅システム」が世界農業遺産に認定されており、これら二つの世界遺産を有するまちでもあります。

そのほかにも、市域には、美しい海・山・川の自然をはじめ、古い歴史や文化、日本三美人の湯として知られる「龍神温泉」や日本最古の湯といわれる「湯の峰温泉」などの温泉郷、温暖な気候と風土に育まれた特産物など、豊かな自然環境と多彩で魅力的な地域資源を数多く有しています。



天神崎



熊野古道

和歌山大学との連携

和歌山大学は県内唯一の総合大学であり、本市を含む紀南地方の高等学校からも毎年多くの学生が進学しており、学術・研究・人材育成機関として、また、教育研究成果を地域に提供するという大きな役割を担っていただいております。

そのような中、本市と和歌山大学は、地域課題の解決に向け、学社融合・産官学連携の観点から、これまでも、協働・連携し、様々な取組を行ってきました。

そして、こうした取組を通して培ってきた関係をさらに充実させるため、2016（平成28）年6月、「地域づくり・まちづくりの推進」「地域経済の発展」「教育・文化の振興及び人材の育成」等を柱とした「連携・協力に関する包括協定」を締結しました。

また、若者の地元定着を地域課題のひとつとして捉え、「大学はないが、大学生はいるまち」を目指す本市にとりまして、まずは、学生の皆さんに、地元の空気感や様々な地域資源を体感していただくことが大切であると考え、「田辺市大学連携地域づくり事業費補助金」を創設し、学びの場としてだけでなく、ゼミやサークル活動等においても本市を訪れていただきやすい環境を整えてきました。

さらに、学生の多くが、出身地の企業の情報や地域の現状などを正確に知らぬままに、半ば定型的大都市、大企業、知っている企業の中から初職を選んでいるという状況の中、学生が進路を考える際に、自身の出身地や関わりのある地域が「ひとつの選択肢」になること、特に和歌山県内（できれば田辺市）への「定着人口の増加」を図ることをねらいとして、2018（平成30）年度から「大学生みらいサポート事業“ロカリアル”」を実施してきました。

そして、この事業を通して、地域と関わりを持ち、現在でも継続的に活動を続けている学生が複数生まれるとともに、「ひとつの選択肢」と「定着人口づくり」の間に、「学生版関係人口づくり」という新しい可能性が見えてきました。



2018年度 ロカリアルの一コマ

「大学生みらいサポート事業 “ロカリアル”」

2018（平成30）年度は10～15名程度の学生がゲストを囲みながら、自由に意見を交わす形で実施しましたが、より多くの学生に参加してもらうため、2019（令和元）年度からは「寄附講義」の形を取り、受講者が200名を超える講義形式の授業となりました。

この寄附講義は、本市のことを知らない、知っていても名前程度という学生に、本市を知ってもらう機会となったことは大きなメリットですが、一方で、双方向型から一方向型となったことで、ゲストとの距離が生まれ、「交流の場」としての機能が低下したこと、さらには、授業だけでは伝えられない地域の現状を深く知る機会の提供「現地ツアー」の実施が見送られたことは、今後の改善点であると考えています。



2018年度 フィールドワークの様子



2019年度 寄附講義の様子

今後の展開

前述のとおり、和歌山大学とは、2016（平成28）年の包括協定締結以後、地域課題の解決に向け、協働・連携を図りながら様々な事業に取り組んできました。特に、2018年度から実施している「大学生みらいサポート事業 “ロカリアル”」事業においては、「本市を知ってもらう機会の増加」「インターンシップの受け入れ」とともに、学生の皆さんにとりましては、地方の現状を知り、ゲストとの繋がりを持つことで、「現実社会の認識」「問題意識の明確化」といった一定の効果が現れてきているのではないかと考えています。

今後、「学生版関係人口づくり」に向け、この「大学生みらいサポート事業 “ロカリアル”」を軸とした継続的な取組が必要であり、同時に、関係人口の創出のために、まずは、地域（地元）の活性化を含めた「地域振興」が益々重要になってくると考えています。

そうしたことから、様々な地域課題の解決に向け、今後とも和歌山大学との連携をより一層密にし、大学が持つ英知と学生の皆さんの斬新な発想・情熱を地域振興に注いでいただきたいと思いますし、そのことが、本市はもとより、紀南地方、ひいては和歌山県全体の更なる発展に繋がるものであると期待をしています。

｜ 田辺市企画広報課 ｜